

【2021年10月 KMA F3-RESグライダー 大会】0907版

1. 2. 一般規則、機体

F3-RESグライダー規則による

<https://jrga.jp/wp/wp-content/uploads/2020/02/F3-RES.pdf>

3. 競技会場レイアウト

- a) F3-RESグライダー規則に定められた15mゴムと、40mのナイロンラインで構成する。
- b) 杭から85m離れた地点にスタートラインを配置する。
- c) スタートラインから10メートル風上に着陸指定点を配置する。
※ナイロンラインの長さ、スタートラインと着陸指定点の距離は当日の状況により変更する場合がある。
- d) ショックコードは4本もしくは5本設置。
- e) 飛行禁止空域内の飛行には警告を行う。競技者はただちに飛行禁止空域外に機体を出さなければならない。悪質な場合はそのフライトを0点とする。
- f) セイフティーエリア内での人、物(テント、椅子、機体など含む)との接触はそのフライトを0点とする。
- f) 発航中もしくは飛行中の機体と人接触が発生した場合は、そのフライトを0点とする。

4. 競技

- a) 競技は主催者の合図による同時発航とする。
但し、当日の気象条件によっては順次発航とする場合がある。
- b) フライトは1回のみとし、脱索によるリフライトは認めない
- c) 作業時間は設けない。
- d) 最大飛行時間は6分(360秒)とする。

5. 公式飛行のやり直し(リフライト)

以下の場合、競技者はリフライトの権利を得る。

- a) 競技者の機体が、発航中に他の機体と衝突した時
- b) 発航中の索からみ、もしくは索切れ
- c) 競技者の関知しない事柄によって飛行が妨害または中止させられた時

但し、グループの競技成立最低人数は3人以上とするので、上記a)、b)もしくはc)に起因してグループ競技人数が3人未満となった場合は、競技を中断し、グループ全員でリフライトとする。

リフライトは、次の優先順にて競技者に与えられる。

- ① 次のグループなど、後に続くグループ(同じラウンド内)
- ② 上記①ができない場合、ラウンド最後に同じグループで実施。
- ③ 上記②で実施の場合、リフライト該当競技者はその得点が、それ以外の競技者は、元のフライトと、リフライトの結果のどちらか良い方を、公式成績とする。

6. 発航

- a) ゴム製チューブとナイロンラインは主催者が用意する。
- b) 競技者は、スタートラインを超えた位置から発航してはならない。

7. 着陸

- a) ラウンドごとに、各競技者はスタート地点と、それに対応する着陸指定点を割り当てられる。競技者は正しい着陸指定点を使わなければならない。
- b) 機体の胴体後部が地面に接しない着陸は認められない。
- c) 着陸エリア外の着陸は、そのラウンドはゼロ点とする。

8. 飛行得点と着陸追加点

8.1 飛行得点

飛行時間は、機体がハイスターから離脱した時に始まり、機体が停止した時に終わる。飛行時間は1秒単位で計測し、1秒未満は切り捨てる。6分超の飛行は超過分を6分(360秒)から差し引く。

飛行時間1秒に対して2点が与えられ、着陸追加点を含めた上でラウンドごとの千分率計算の得点とする。

8.2 着陸追加点

機体が停止した時の機体の機首先端と着陸指定点の距離に応じて、下記の追加点が与えられる。

距離(m) 着陸追加点

0.20m	100点	1.80m	92点	9.00m	60点
0.40m	99点	2.00m	91点	10.00m	55点
0.60m	98点	3.00m	90点	11.00m	50点
0.80m	97点	4.00m	85点	12.00m	45点
1.00m	96点	5.00m	80点	13.00m	40点
1.20m	95点	6.00m	75点	14.00m	35点
1.40m	94点	7.00m	70点	15.00m	30点
1.60m	93点	8.00m	65点	>15.00m	0

8.3 以下の場合、着陸追加点はゼロとする。

- a) 機体の後端部分が地面に接していない時
 - b) 機体の一部が脱落した時
 - c) 機体が飛行できない状態になった時
 - e) 機体が競技者やその競技者の助手に接触した時
 - f) 着陸距離の計測の前に、競技者やその競技者の助手が機体を動かした時
- 尚、6分を超えて飛行しても、着陸追加点は加算される

9. 最終成績

当日は4ラウンド以上を行う。フライオフは行わず、ラウンドの合計点により競技の順位を決定する。

ラウンドの合計点が同点の場合は、素点の合計により順位を決定する。